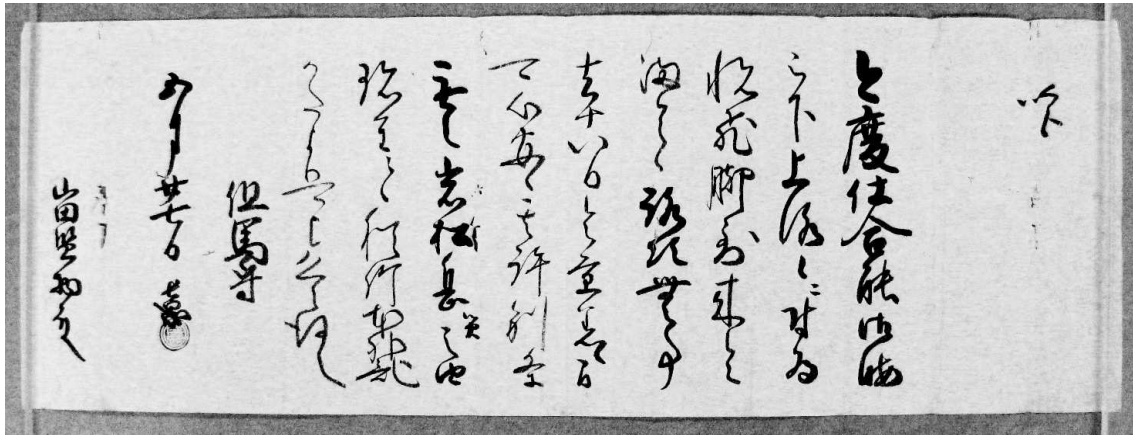


広島藩浅野家初代藩主・浅野長晟書状 (年不詳) 5月27日

山田家文書 (8810-79-2)

江戸から帰参を許された長晟が、京都から国元の山田監物に宛てた書状である。無事に京都に着いたので安心されたい、という内容である。文中に見える「岩松」は長晟の嫡子、後の光晟である。

長晟は浅野長政の二男で、兄幸長が死んだあと家督を継いで和歌山を所領としていたが、元和5年に広島に転封された。以後、広島浅野家は、明治維新まで12代続くことになる。



以上

今度仕合能御暇

被_レ下、上洛候二付、為_レ

悦飛脚到来、令_二

満足一候、路次無事

去十八日令_二京着_一候間、

可_二心安_一候、其許別条

無之、岩松息災之由

珍重二候、猶竹本外記

かたより可申候、恐々謹言

但馬守

五月廿七日 長晟(黒印)

山田監物殿